

新川通信

第13号

題字：佐藤 大作

令和2年4月15日発行

巻頭言

おめでとう新川誕生200年《新川は地域の宝》

未来に語り継ごう新川の歴史を！

越後新川まちおこしの会会長 佐藤 正人

文政三年（1820）1月、二門の底樋から勢い良く三瀉の悪水が流れ出した。その流れを見守る多くの人達は、これまで三年一作と言われていたが「これで毎年、米が出来るぞ！」「万歳・万歳」と涙を流して喜んだ。農民達が三瀉の悪水からようやく解放された瞬間でもありました。伊藤五郎左衛門ら先人達が私財を投げ売り、幾多の困難を乗り越えて完成させた堀割は、やがて新川と呼ばれるようになりました。



文政3（1820）年三瀉悪水抜きで新川となった

新川の完成により恩恵を受けたのは、農民達だけではありません。当時の内野は、宇崎山と宇細越からなる100軒にも満たない寒村に過ぎなかったが、多くの工事関係者が集まった結果、鍛冶屋、桶屋、茶店、床屋、酒屋などができ、賑わいました。

さらに海から魚類が登りはじめ、サケやウナギなどが獲れるようになり、割烹料理屋なども作られ人口も増えて大いに繁盛し、在郷町が形成されて行きました。

文化面では、上神社と下神社の祭りも賑やかになり、子供が溺れないことを祈願して奥手山に静田神社が建てられ、精神文化にも影響を及ぼしました。いわば、この新川開削事業は、上流三瀉の悪水抜きを果たすとともに、内野地域に新たな文化をもたらした、地域の宝なのです。

令和二年（2020）、新川は200歳を迎えました。越後新川まちおこしの会では、この歴史的事実の周知を図るため、様々な行事をおこないながら地域の皆様と共に、これからも100年200年の未来へ語り継いで行

きますので、今後とも会員各位と地域の皆様からのご支援ご協力をお願い申し上げます。

最近のトピックスとして、内野まちづくりセンターの1階ロビーに、3月19日から【慶応の底樋模型】の展示を始めました。

150年前にこの慶応の底樋模型を作らしたのは、大河津分水路建設を明治政府に請願した中の一人、鷲尾政直氏（1841～1912 新潟市西区黒鳥出身）です。

孫の貞一氏は西蒲原土地改良区の初代理事長であり、郷土の発展に貢献した方です。

上皇陛下が皇太子時代の、昭和31年7月16日から新潟県内を御視察された際に、完成したばかりの西川水路橋（新川と西川の立体交差）を視察されました。

新川開削の歴史を説明する際に、この模型が使われました。当初は鷲尾家の近くの緒立八幡宮に展示してありましたが、昭和46年新川河口排水機場が完成すると、1階のショウケース内に展示されていました。

このたび、西蒲原土地改良区様より寄贈を受け、内野・五十嵐まちづくり協議会協力のもと、ここに閲覧できる様に設置が出来ました。“撮影OKぜひご来場を”

雪のない冬が2年続き安心していたところ、2月の末に新潟市内で新型コロナウイルスの感染が確認され、全国の学校が休校になり、感染は世界中に広がるなかで、東京オリンピックの開催も1年延期となりました。

新潟市では感染者を隔離治療し、濃厚接触者の把握とPCR検査機能を強化して、感染拡大の防止に努めています。また各種イベントや行事が中止・延期となり経済状況も悪化の一途をたどるなか、中原市長が先頭に立ち、市職員と市議会が丸となり、県や国と連携して、市民の安心・安全と経済の立て直しに取り組んでおります。

結びに、早期の新型コロナウイルスの終息と会員皆様のご健勝を心から御祈念申し上げます。

触れる！踏める！“踏み車”体験イベント

渡邊 宏海

当会では例年夏になると、ウオロク内野店向かいの新川左岸にある、新川まるごと博物館敷地内で“踏み車”の体験イベントを開催してきました。

今回は、新川開削 200 年のプレイベントとして、「水と土の文化創造都市 市民プロジェクト 2019」行事の中で踏み車体験会を開催しました。

新川における踏み車は、江戸時代の底樋敷設工事の際、現場に湧いてくる地下水を汲み上げ、西川との立体交差の完成に一役買った重要な存在です。



子ども 3 人と一緒に体験したお母さん

日本全国でも灌漑などに使われ、現在でも各地の博物館によく展示されていますが、通常は姿を眺める事しかできません。それを訪れた人に実際に、触れて、踏んで、汲み上げて、力強さを体感し、当時の様子を想像してもらいます。この踏み車について、もっと踏み込んで考えてみましょう。

「この 1 台で 1 分間漕ぐと、1 トンの水が送られるんですよ。」こう体験中に声を掛けて、驚かない人はいません。

踏み車は 17 世紀、大阪の京屋七兵衛・清兵衛によって発案され、18 世紀頃日本各地に普及したと言われています。この時代には、竜骨車という中国由来の精巧な揚水機がありました。だが、精巧ゆえに壊れやすいそれに対し、単純な構造をしている踏み車は頑丈でした。そのうえ揚水能力も竜骨車よりはるかに高かったこともあり、日本では次第に踏み車が支持されていたようです。

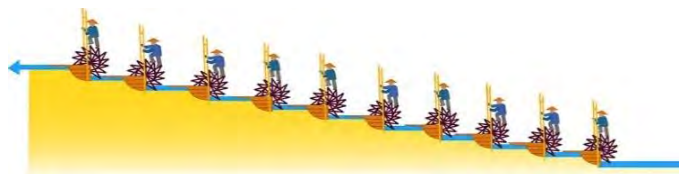
さらにその単純な構造には、高い可搬性というおまけが付きました。分解して持ち運び、水場さえあればどこでも組み立てて水を汲み上げられます。当会でもイベントの際には、踏み車を保管先から持ってきて組み立て、水場を用意して体験会場を作ります。

しかし竜骨車が 1 台で 1m も揚水できるのに対し、



2019 年の踏み車体験チラシ

踏み車 1 台では 30cm 程度しか汲み上げられません。底樋を埋めるのに地面を掘り、湧き水を排水するのに 3m は揚げなければなりません。どうしたのかというと、踏み車を縦 10 段、横 5~6 列並べて長時間漕ぎ続けました。技能と工夫と気概で越後人は、19 世紀当時最先端の工事を成し遂げ、21 世紀の今に新川を残しました。



底樋を埋設する時は 10 段で 3m 地下の排水を行った

2019 年の踏み車体験には、通りすがりの親子連れ、休暇中の中原市長、県外からの旅行者、釣りに訪れた若者、この年創設された Facebook の投稿を見た市民…等々様々な方々が来られました。10 分間近く漕ぎ続けた子ども達には賞状を送りました。温暖化の猛暑の中さらに降り注ぐ日射しを、テントと菅笠の影で凌ぎ、古くからの技術に触れながら、新鮮な体感に心躍らす…。

2020 年はオリンピックイヤーでもありますが、新型ウイルスの影響で開催は延期となってしまいました。

この原稿の時点ではまだその勢いは治まっていませんが、騒ぎが落ち着いてきたら是非、新川の踏み車で汗を流しに来てください。お待ちしております。

【参考文献】

・『新川通信 第 4 号』大熊 孝「西川と新川の立体交差の必然性とそれを可能にした“踏み車”」

女性の視点からの新川パネルディスカッション

コーディネーター 安富 佐織

今からちょうど200年前に行われた江戸時代の難工事、内野の歴史上の大きなイベントである新川開削。この大仕事を成し遂げたのは表舞台に立つ男たちですが、その陰には、毎日の生活をしっかりと支えた女たちがいました。

その力があってこそ、この大仕事が成功したのではないのでしょうか。歴史には残らないけれど、江戸時代の人々の生活の中にある女の仕事、女の底力に想像をめぐらせて、新川開削を新しい視点からも考えることができるのではないかと。

江戸時代の人生の知恵を知ること、今の時代、特に若者に向けて、現代にも通じる「生きるヒント」が発信できるのではないかと。そんな思いから、女たちによって今と昔の女たちを考える企画が生まれました。



越後新川まちおこしの会会員。司会役をホイホイと引き受けてしまう調子の良さが取り柄と言うが、難問もすぐに解決するスーパーウーマン。内野小学校のPTA役員、内野の盆踊り、普段着の和服経験もあり、パネリストと共感するところも多い。愛する内野を離れて昨年からは茨城県水戸市在住。医学生物イラストレーター。

衣・食・住・伝統芸能を切り口に、丸山久子、臼井イエ、野村キヨ、大滝則子、綱本麻利子の各氏をパネラーに迎え、越後新川まちおこしの会より安富佐織コーディネーター、星恵美子講師を加えて、現代に生きる女性による催しとなりました。

当日は、予想以上の観客の皆様のご来場にスタッフ一同感謝感激でした。

本番前には何回も打ち合わせを重ねました。また、内野の生活の歴史を取材するため、内野中学校の地域教育コーディネーター玉木園子氏からも多大な協力を得て、内野の料亭5軒の女将にインタビューを行い、3回にわたる丁寧な聞き取り調査をまとめた内容も、当日パネルと口頭の両方で発表しました。内野には新川開削の時代から続く料亭もあり、昔の内野の話も伺いました。

女たちが語る今と昔 新川開削200年イベント

200年前、男たちが新川開削に力を尽くすことができた際には、家族の日々の暮らしを支えた女たちの存在がありました。男たちの偉業を支え、しっかりと暮らしに根ざして生きた女たちがもつ底力の姿を、開削当時の庶民の暮らしの衣・食・住・伝統芸能等を切り口に、皆さんと一緒に考えてみませんか。是非、ご参加ください。

■ 期日：令和元年10月5日（土）13：30～16：00
■ 会場：新潟市西地区公民館 3Fホール

★13:00 受付、展示…昔の生活道具(酒器、行楽弁当箱など)、生活雑物「亀田絹」の今
★13:30 開会、講演…「十返舎一九も見た、新川開削」
★13:50 体験…「魅寿司の試食・江戸時代の着装・草木染・内野盆踊り」
★14:10 パネルディスカッション…「女たちが語る江戸の暮らしと今」

新川開削200年を前にした記念イベントとして、2019年（令和元年）10月5日土曜日、西地区公民館3階ホールで「十返舎一九も見た、新川を支えた女たち」と題したパネルディスカッションです。

内野五料亭女将の聞き取り

いづ 茂

名物担当：和食の歴史や文化について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

女将：青池 栄子さん

出身：新潟市中央区西郷大堀

料理の得意：うなぎ料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

魚 長

名物担当：現代風三ツ星が得意な料理、そのほか料理に、魚と、魚と、魚と。

女将：青池 紀子さん

出身：新潟市

料理の得意：魚料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

魚 玉

名物担当：2代目の旦那様が宮のように入ったこと、宮のように入ったこと、宮のように入ったこと、宮のように入ったこと。

女将：野田 栄子さん

出身：新潟市中央区金魚通り

料理の得意：海鮮料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

大 門

名物担当：清湯の大門に上がったこと、大門に上がったこと、大門に上がったこと、大門に上がったこと。

女将：藤田 邦子さん

出身：新潟市西地区小針

料理の得意：和食料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

刺 楽 松 の や

名物担当：旅館の歴史や文化について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

女将：若崎 千重さん

出身：青森県

料理の得意：和食料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

魚 玉

名物担当：2代目の旦那様が宮のように入ったこと、宮のように入ったこと、宮のように入ったこと、宮のように入ったこと。

女将：野田 栄子さん

出身：新潟市中央区金魚通り

料理の得意：海鮮料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

大 門

名物担当：清湯の大門に上がったこと、大門に上がったこと、大門に上がったこと、大門に上がったこと。

女将：藤田 邦子さん

出身：新潟市西地区小針

料理の得意：和食料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

魚 長

名物担当：現代風三ツ星が得意な料理、そのほか料理に、魚と、魚と、魚と。

女将：青池 紀子さん

出身：新潟市

料理の得意：魚料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

刺 楽 松 の や

名物担当：旅館の歴史や文化について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

女将：若崎 千重さん

出身：青森県

料理の得意：和食料理が得意。開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について、開削の歴史や当時の生活について。

新川開削シンポジウム その後の座談会

安富 皆様、お集まりいただきありがとうございます。

おかげ様で、昨年11月に行われました「十返舎一九も見た 新川を支えた女たち」は、120名を超える多くの方々にご来場いただき成功裏に幕を閉じることができました。

この企画の立役者である新潟子ども医療専門学校の星 恵美子さんに、新川開削のあらましを面白い講談でお話いただいたのが、会場も盛り上がったし、事前説明にもなって、とても良かったですね。



星さんの講談 十返舎一九も見た新川開削

本日は、パネラーとなられた皆様に、参加されての感想を自由にご発言いただき、今年の第2弾の企画に役立てたいと思います。それでは、はじめに綱本真理子さん、いかがでしょうか。

綱本 越後新川まちおこしの会の佐藤会長からパネラー依頼のお話があった時、私ができるのは何だろうと悩みました。PTAの会長はじめ役員の方ともご相談し「子育て」というテーマに決めました。

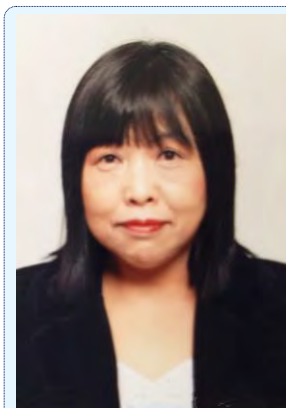
このような発表は初めてなので、当日まで、公民館等にこもってひそかにプレゼンテーションの練習を重ね、緊張で胃が痛くなることも度々でした。

安富 えっ、堂々たる立派な発表でしたよ。すばらしかったです。

綱本 ありがとうございます。皆様のご協力の賜物です。今、終わってみて強く感じることは、新川についてのたくさんの知識を得たこと、年代・活躍の場を超えた新しい人間関係が広がったことです。

内野生まれ、内野育ちでありながら、新川について知るところは本当に少ないものでした。新川がどのような先人の思いに支えられてきた川なのか、一家離散に至ってまで、農民の苦しい暮らしを我がことのように考え、新川開削を貫徹した伊藤五郎左衛門さんを思うと心が震えます。

● 講師 星 恵美子さん



新潟子ども医療専門学校講師。格調高い学術発表から迫力と笑いで観客を引き込む講談まで、幅広い守備範囲を誇る。若者を地域に引っ張り出し、活動体験から学ぶ機会を次々と提供するその企画力と行動力で地域からも学生からも人気と尊敬を集める元気な恵美ちゃん。

野村 この発表の事前学習として読ませていただいた内野郷土史「内野の今昔」によれば五郎左衛門さんは、婿養子で病弱な方だったらしいですね。にもかかわらず、強い心をもってこの大工事を成し遂げた。この内野の地には、すでに江戸の昔から社会福祉の源流があったというのは素晴らしいことですね。

綱本 今回の取り組みを、小学校に報告しました。すると、校長先生が、新川の会5月の企画、中原市長・佐藤会長・藤沢周氏の鼎談に、中学校の校長先生ともども、参加してくださるとのこと、本当に嬉しく思いました。

また、友人がこの会に参加し、内野に花火大会があったことを知り、何とか復活させたいと動きはじめています。

こんな女が語る 200年前の子どもたちの姿と 子育ての様子を考えてみよう

- ①新川掘削のあった江戸時代や昔のことに触れて、現代と比べる
- ②昔の苦労とともに昔の良さも考え、現代に生きる人たちにも参考にしてもらえるようにする

綱本さんのパネル内容 江戸時代と現代

このような反響を見ると、今回の体験が単なる個人的体験ではなく、今、強く求められている「学校と地域の連携」の萌芽に繋がる可能性を実感します。

子育て・教育は、急激な社会変化による多様化と複雑化から、家庭や学校一人が負う時代ではなくなりました。未来を担う子どもたちは地域の宝です。

子ども一人ひとりがその個性を十分に発揮して生きるためには、地域全体の子どもを健康に育むための協力が不可欠です。

この取り組みは、地域の教育のあり方にも大きな示唆を与えたのではないのでしょうか。

大滝 私は新潟生まれの新潟育ちですが、この企画への参加を通じて、改めて内野には独特な文化があるということを実感しました。その地域独自の文化形成に、新川開削が大きな影響を与えた可能性は大変大きいと考えます。

開削に当たって各地から多くの人々がこの地を訪れ、そこに異文化交流が生まれ、独自の文化が形成された。開削という江戸の大工事は、内野という地域の人々の暮らしや文化に、現在に至るまで大いなる影響を与えたということでしょうか。

酒屋、茶屋、旅籠といった暮らしに必要な商業基盤が整備され、懸命に働いた後は十分にリフレッシュする、まさにワークライフバランスのとれた暮らしがそこにあった、新川開削を支えたのは、そのような庶民の暮らしの健全さであったと考えます。

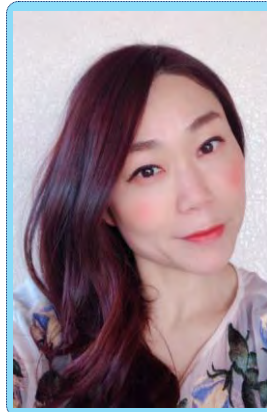


壇上のパネリスト野村さん、大滝さん、綱本さん

野村 私は、そうした当時の人々楽しみであった、内野の貴重な無形文化「内野盆踊り」についてお話をさせていただきました。

当時の数少ない楽しみの中、盆踊りは庶民が心待ちにする一大イベントでした。やがて、新潟各地で盆踊りが甚句に変化していったにもかかわらず、内野では盆踊りとして残り続けました。盆踊りは娯楽としての側面とともに先祖供養という宗教文化的な部分もあります。内野には、各町内が神社を持つという信仰深い精神的風土があったからではないかと思います。今も、この神社を地域の年配の方々が、定期的に清掃して大切にしていますが、これも私たち内野が誇れることですね。

● パネリスト-綱本 麻利子さん



元内野小学校 PTA 役員。その判断力と行動力はピカ一、状況判断の的確さに度肝を抜かれる。小学校 2 年生と 5 年生の二女のやさしい母親の顔をもつ傍ら、ハーゲンダッツに心酔するという冒険心旺盛な側面もある、アンビバレンスな魅力が、持ち味。「夜のパトロール」と称して気の合う仲間と一献傾け、今後の教育のあり方を考え続ける人。

安富 すばらしいことですね。そうした年配の方々の様子を見て、周りの若い世代がその気風を引き継いでいく。内野では町内ごとの手作りの山車あり踊りありで9月の3日間にわたる「内野まつり」が長年続けられていますね。高齢化により、日本国内の地域の祭りがどんどん少なくなる中で、これからも守り続けたい大切な伝統行事ですね。

野村 盆踊りに戻りますが、盆踊りはどの地域においても、当時の男女の出会いの場であったとされていますが、内野の盆踊りには、それが、歌詞やはやし言葉の随所におおらかに表現されているのも特徴ですね。性をタブーとする当時の日本の風潮にあつて、異性に対する思いを率直に堂々と歌い上げているのは、実に人間的だと感じます。

内野盆踊りの魅力

①踊り手・歌い手等盆踊りに参加した人が、自由に自己表現できる

↓
マイノリティなものを排除しがちな現代とは正反對の、温かな人と人との自然な結びつき

②暮らしのエネルギーとしての伝統文化

↓
文化に誇りを持ち、一人ひとりが自分の身の丈の暮らしを受け止め、共に支えあつて生きる

野村さんからの「内野盆踊りの魅力」

このように、人間のありのままを認めることは、歌い手や踊り手の表現の自由を認め合うという盆踊りのスタンスにも伺えます。歌詞は歌い手によって変幻自在に変えられ、踊りも一定の型はあってもアレンジ自由、歌い手のテンポに囃し手が合わせる。人間一人ひとり「皆違って皆いい」という、自他をともに認め合う姿勢があふれています。

安富 この盆踊りは、戦後、歌詞が教育的によろしくないとしばらく封印されていたそうですね。それを掘り起こし、学生たちとともにこの地に復活させた「内野の盆踊りの会」の中心メンバーとして活躍されているのが、新潟大学の伊野義博先生と松浦良治先生だと伺っていますが。

野村 はい、先生たちは本当に熱心に普及活動をされ、毎年7月に盆踊りが開かれています。そして、この誇るべき盆踊りを後世に残そうと、地域の小中学校で太鼓、笛、踊りの指導にあたっていらっしゃいます。そのような中学生たちが、櫓に立ち、真剣に笛や太鼓を演奏し、初々しく踊る様子を、誰もが嬉しそうに笑顔で見守っています。郷土芸能を介した世代交流ですね。留学している新潟大学生も、浴衣を着て踊りの輪に加わっていますから、国際的な世代交流といった方がよいでしょうか。

安富 丸山さんは、村上の岩船麩が、麩寿司として新潟市西蒲区で食されていることについてお話しくださいましたね。



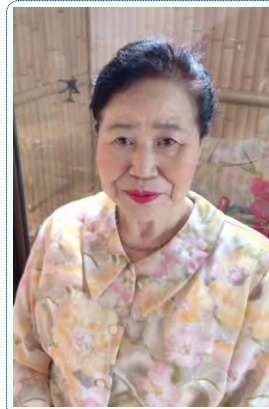
試食の麩寿司が大変人気であった

丸山 はい、パネルディスカッションに先立って、ご来場の皆様へ、昔川船で運ばれた麩寿司を召し上がっていただきました。川船で運ばれた食に、興味をもっていただいたようで嬉しいです。

岩船麩はもともと、北海道と京都を結ぶ北前船の寄港地・岩船で特産品として作られ、北海道にも出荷されていました。コロンとしたかわいらしい形から「丸麩」「饅頭麩」とも呼ばれます。村上では、丸ごと吸い物の椀種や煮物等の料理に使われていましたが、それが川船で運ばれ西蒲区と西区（一部）に入ってきて、この地独特の麩寿司という新しい料理が生まれました。

西蒲区の曾根は村上藩の飛び地でしたので、曾根の代官所には岩船麩がたくさん献上されたといわ

● パネリスト-野村 キヨさん



内野地区の民生委員（児童委員）在任中に、内野地区に高齢者要介護予防サークル「げんきですかい」を立ち上げた立役者。この会は、自分たちの定例活動のほか、「餅つき」「内野盆踊り」、「東日本大震災の際の炊き出し」日本こども福祉専門学校とのコラボによる「高齢者ファッションショー」など地域活性化を担う重要な存在。

れます。軽くて運びやすかったからでしょうね。それが、その地域に広まって麩寿司が生み出されたのではないのでしょうか。

安富 最近、クックパッドにも、麩寿司の作り方が紹介されていますね。

丸山 そうですか。そういえば、私が麩寿司について調査を始めたころは、この地域は、岩船麩を扱っている販売店は少なかったのですが、今、ほとんどの店においてあるのは、そのような情報化社会が一役買っていたのでしょうか。

岩船麩には一合もの飯が入るといいます。麩は油揚げと違って腐りにくい食材ですから、当時の旅の携帯食としても重宝されました。麩は小麦粉からつくるとたんぱく質ですので栄養的にも優れておりますし、そのつるんとした独特の食感も好まれるものだったのですね。

安富 当時の食に関するお道具についてもご紹介くださいましたね。

丸山 はい、弁当箱を見ていただきました。酒や肴、寿司等を上手に収められる弁当箱は、まるで籠のように、二人が天稟棒で担いで運んだということです。



コーディネーターの安富佐織さんとパネラーの丸山久子さん

花見に向かう道中、皆が宴の楽しさを思いわくわくする、そんな役目も果たす、貴重なお道具だったのですね。

行楽弁当箱



持ち運びができ、いろいろな物が収納できる行楽弁当箱

今、学校で「食育」が盛んですね。野菜を育て、自分たちで調理することも意味のある取り組みですが、食文化についても光をあててほしいと思うこともあって、今回、私は麩寿司のことをお話させていただきました。大げさな言い方になりますが、人間は有史以来、様々な環境の中、創意工夫して命をつないできました。そうした生きるための食の知恵が食文化となり、その地独特の食のあり方となっています。

そうした郷土料理にこめられた先人たちの思いを汲み取り、伝えていくことは、未来を生きる人への心強いメッセージとなると考えます。

大滝 アンケートの中に、私の発表について、「新川開削と関係が薄い」とのご指摘があったのが気になりました。

安富 確かに直接的関係があるのかと、腑に落ちない方もいらしたかもしれませんね。しかし、私たちのこの企画のコンセプトは、当時の江戸の庶民の暮らしを女たちの目でフォーカスし、今と対比させることで、未来を考えることでした。

その当時の江戸の暮らしの中の一つの大きな出来事のひとつが新川開削という捉え方なので、江戸と今の暮らしを考えた大滝さんの発表は、私たちが目指した考え方にマッチしていると思います。

大滝 良かったです、安心しました。私の発表のテーマは、江戸時代の人々には「ひきこもり」や「アレルギー」が少なかった事を切り口に、健康とは何かについても一度、皆さんと考えていくことでした。

● パネリスト-丸山 久子さん



食文化を研究する民俗学者。新潟県内を中心とした食について精力的に研究する。県内各地の郷土史編纂委員（食担当）のキャリアを活かし、「食」に関する教育や、様々なイベントにも積極的に関わる。服やバッグを手作りし、個性的な生活スタイルを楽しむ姿勢、本当の暮らしの豊かさを知る生き様が伺える素敵なシニア。

江戸時代を生きた先人たち、暮らしは今のよう便利ではなかったけれど各々が、与えられた環境で工夫し、助け合って暮らしていました。利便性がない分、必然的に助け合うことが求められたのかも知れません。

私は、健康に関連する江戸の暮らしの特徴を、「貰い乳」「布おむつ」「雑菌との共存」の3点からお話しいたしました。

赤ん坊の命をつなぐのは乳でした。しかし、江戸時代には、栄養や生活環境の劣悪さから、母親の死亡や乳が出ない状況が多くあったといえます。そのような時、たくさん乳が出る母親が、他人の赤ん坊に自分の乳を分け与えました。乳兄弟という言葉はこのような乳の分け合い、助け合いを意味する言葉です。今のように、子育てを母親だけが担うのではなく、地域におおらかな子育てネットワークがありました。

昔には、なかった物・ことから

- 通勤ラッシュ 
- 交通渋滞 
- 不登校
- アレルギー 
 - 花粉 猫 食べ物 Etc.etc
- 紙おむつ 

まだまだたくさん思いつきますよね

現代と過去との比較から話は始まりました

当時の浮世絵や農業絵図に描かれた乳房を出して赤ん坊に授乳する絵が多くみられるのは、授乳が、閉ざされた空間でなされるものではなかったこと、乳房を人前にさらすことは自然なことだったこと

を示すもので、このような、ごく自然な母親の授乳の姿は、昭和の初期まであちこちで見られましたね。

臼井 着物は授乳にも便利な衣服といえます。両肩を下げればすぐに赤ん坊に乳をあげられますからね。体にぴったり縫製されている洋服ではそうはいかない。当時の日本の暮らしと着物はよく合っていたのですね。



壇上で臼井さんの着付け教室を行った

大滝 はい。また、今は紙おむつが主流ですが、昔は布おむつだけでした。研究者によれば、この紙おむつの使用によって、本来1歳半前後で自立していた排泄が3歳にも伸びているとされます。

そして、排泄の自立は、単にオムツを外すということではなく、自らが自分の体の主体者となることを意味するものであり、自分で考え判断する力は、紙おむつになってから確実に後退しているといっています。オムツを外すために、子どもの表情をよく観察してトイレに誘導することも、紙おむつでは不要となり、親子のコミュニケーションが、どんどん減っていく。紙おむつはいつも乾いた状態なので、不快感を得にくくなり、子どもの感性を封じ込めていく。これらが導いた結果なのです。

エコの視点から見ると、紙おむつは膨大な生活ゴミとなります。一方、布おむつは、家族の浴衣のリメイク、洗って使うエコ素材ですよ。

私たちは、便利さと引き換えに、子育てに大切なものを失ってきたことを痛感します。

安富 3点目の「雑菌との共存」とは、なんともユニークですね。

大滝 今、新型コロナウイルスで世の中が騒然としていますね。確かに消毒は有効な防疫方法ですが、本来人間の皮膚は、手術用のゴム手袋を一枚つけた状態で、体に有害なものをはねつける機能を持っています。必要以上の消毒は、その手がかもつ機能を奪い

● パネリスト-大滝 則子さん



新潟こども医療専門学校の非常勤講師。新潟市の養護教諭を退職後は、訪問教育相談員として「ひきこもり」や「不登校」の児童・生徒の支援を行う。人を丸ごと理解する姿勢とやさしさに引かれ、「憧れの先生」として多くの学生の信望を集める。独特のヘアスタイルと古着からリメイクした洋服をさりげなく着こなすセンスの良さも人気。

取るリスクもあることを考えると、店頭からアルコール消毒液が消えるという現象には、首を傾げます。

当時の人々が、現代にタイムスリップしたらこういうでしょうね。「そんなに防御するから、お前たちの体は、どんどん弱体化するんだ。人間にはホメオスタシスがあるんだぞ。自然に帰れ」と。

様々な情報取得が容易にできる時代だからこそ、今、よく考えることが求められているのではないのでしょうか。そのベースは、「誰のため」「何のため」を考えるかであり、そのゴールは「その人らしく生きることを皆で支えあう」ことだと思います。



企画・パネリスト選考も女性が行ったパネルディスカッション

臼井 昔から伝えられてきた「着物」を日常着として着る人が、少なくなりました。「着物」に対する興味は激減し、日本の伝統文化のひとつである着物文化が軽視されているように感じるのは私だけでしょうか。

ハレの日に「着物」を着ることはあっても、袖口にフリルをつけたり、帯結びが奇抜だったり、それはそれで、個性の現代的自己表現かもしれませんが、「着物の心」という伝統文化の理解があれば、それも、さらに豊かなものとなる気がいたします。その

ような「着物の心」を多くの方々に伝えられればと
考え、今回のパネラーのお役目を引き受けさせてい
ただきました。

安富 長年、着物の普及に尽力されてきた臼井さんが、
「留袖や振袖は専門家にお願いすればよい。」とお
っしゃられたことに意表を突かれました。

臼井 当日は、私の友人にもお手伝いいただき、気軽
にできる着付けの裏技をご紹介しました。

昔は着物を着て生活していたわけですから、裏技
には、着易く動きやすいという要素が取り入れられ
ていると考えたからです。

ハレの日のスキのない着こなしをしようと思っ
たら、ハードルが高い。しかし、普段着・洒落着・街
着だったら、自分で気楽に着られます。



会場内の様子

その為には、よく着物を着ている方に着装につ
いての経験を聞くことが役立ちますし、そこから、自
分の身体に合わせた着装を考えていけますね。その
際、専門の先生にお話を聞くのも大切だと思います。

そして、いよいよ自分で着る時に、覚えた裏技や
自分で創意工夫をすることで、さらに「着物」を
着る楽しさが増すと思います。

また、親が日常的に着物を着ることで、子ども
たちも着物に関心を持ち、日常生活に自然な形で溶け
込んでいくと思います。

安富 先ほど「着物の心」と言われました、具体的に
お話いただけますか。

臼井 私の恩師は着物を着ることは「愛・美・礼・和」
であると説きました。

着装とは、①着物を着ること自体が目的ではなく、
②周囲に感じよく優しい愛の心、③自分をより美し
く高めようとする美の心、④人を尊敬する礼の心、
全てと調和する和の心を涵養することだというの
です。この「着物の心」が身についてこそ、長い年
月を経て受け継がれてきた着物の価値を活かした

● パネリスト-臼井 イエさん



臼井着物教室主宰。「装道」師範。
確かな技術と歯に衣着せぬユー
モラスな語り口はお弟子さんに
大人気。「着付け」のほか「礼法」
「茶道」「華道」にも精通し、元
体育教師パワーと大和撫子の風
格が備わったスーパー師匠。日
本の伝統衣装「着物」普及のライ
フワークでは、老人ホームから
小学校まで飛び回り、幅広い人
に着付けの技を指南している。

着装が可能になると考えます。

そのためには、長所も短所も含めて自分自身をよく
知り、好きになり、相手を自分と同じように慈し
める、豊かな人間性の獲得をめざす自己研鑽が不可
欠ですね。

安富 ありがとうございます。「十返舎一九も見た
新川を支えた女たち」から見えて来たのは、当時を
生きた人々が、互いに支え合い助け合って、真摯に
生きていたこと。今の社会で必要と言われる要素が
ここ内野にすでにあったということでしょうか。

終わりになりますが、この企画に際して、お世話
になりました、「内野5料亭の女将が語る苦労話」
の取材と展示資料作成の内野中学校教育コーディネ
ーターの玉木園子様、江戸時代のお道具の展示の
為の貸出を快諾いただいた「樋木酒造」様、ポスタ
ー原画製作の関純子様、「内野盆踊り」実演の「きく
の会」、「内野の盆踊りを守る会」、黒子役に徹して
企画運営全体をサポートして下さった男性会員、
お忙しい中、会場に足をお運びくださった皆様方に
心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。



休み時間に新川開削や、内野町に関する展示を見る参加者

新川開削の歴史を映像作品に

加藤 功

◆200年後の人に、新川の魅力を伝えたい

2020年 新川は開削200年を迎えました。

全国有数の米生産高を誇る西蒲原の美田が、現在の姿になったのはそれほど古いことではありません。西蒲原のほとんどの悪水を集めて日本海に放流している「新川」が、旧暦の文政3（1820）年1月に堀割されたことが転換点となっています。

今回、西区自治協議会の宝サポート事業の助成を受けて「新川開削の歴史」を映像作品として出させていただき、ありがとうございました。

この十返舎一九とたどる「新川開削ものがたり」の映像作品で表現したかったのは、新川の魅力、特に西川と新川の立体交差と新川開削に至る歴史にあります。そして高いレベルの工事技術、その工事により在郷町となった内野の文化、そして長岡領願人の共助を映像で出したかったのです。

日本国内には百を超える川の立体交差があります。これまで名だたる立体交差を見学してきましたが、その多くが河川改修され、サイフォン形式で川の下にトンネル形式で流れています。そのため、誰かに説明していただけないと、川の立体交差があることを実感できないものが多くありました。それらに比べ新川の立体交差は、その全景を誰もがそこに立てば一目で川の立体交差を納得する点にあります。これは日本一であり、私は新潟のお国自慢のひとつにしています。



西川と新川の川の立体交差 ドローンで空撮

新潟の下で生まれた私は、28歳まで新川開削の歴史を知りませんでした。昭和48年、新潟市中央公民館の成人学級で、講師の池 政栄氏より新川開削の話と川の立体交差のあることをお聞きしました。それ以来新川と縁ができ、あれから45年が経ちました。

その後私も西区に家庭を持ち、新川の歴史を本格的

に調べる中で、会の顧問である大熊 孝先生と出会い、川の見方、考え方が変わってきました。新潟市の歴史の中に西蒲原三濁の悪水抜きの記事はあるのですが、新川を知るうえでの通史編がないことより、歴史仲間と一緒に新川の通史編の小冊子を作りました。その冊子が縁で、越後新川まちおこしの会の新川開削200年担当となり、あつという間に13年です。

この新川開削の始まった文政元年（1818）7月、東海道中膝栗毛で当時の流行作家となった十返舎一九が内野に来ています。内野金蔵坂砂丘を切り崩している様子を「内野砂山堀割之図」として描き、江戸の人々に、越後内野の大工事の様子を紹介しています。



文政元年7月十返舎一九が描いた内野金蔵坂堀割

それをヒントに、十返舎一九と弥次さん喜多さんが「200年前のかの世」から現代の内野へ来て、新川開削200年を迎えた現場より、私たちに実況報告するストーリーとした脚本を作りました。

新川の魅力を語るには空撮は欠かせないものです。そこで王 毅さんをお願いしドローンで空撮、漫画は新潟市の高橋 郁丸さんに描いていただきました。

県外の人でも西蒲原と新川の歴史、地形を理解していただくため地図などの工夫はしたのですが、まだ経験と力不足で伝えきれなかったものが多くありました。上映時間も60分と長くなり反省しています。

この映像は、新潟市の全地区事務所、市立図書館及び西区、西蒲区の全小中学校に寄贈しました。新潟市西区役所地域課にて貸し出しをしていますので、ご利用ください。

また、十返舎一九とたどる「新川開削ものがたり」でYouTubeにアップしましたのでご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=1YeNwDCR_tc

ついに完成『新川開削ものがたり』 - 雑感

小泉 勇

令和2年2月15日(土)午後2時より内野まちづくりセンター3階ホールで、西区協議会と越後新川まちおこしの会の共同主催の、十返舎一九とたどる「新川開削ものがたり」の上映会が催されました。

当日参加者を100名程と予想していましたが、新潟日報に上映会の記事が載ったことで、約300名の方がお見えになり、50名程が見る事が出来ずお帰りになりました。主催者として大変申し訳なく思っています。



2/15 内野まちづくりセンター3階ホールは立ち見の方もいました

この映像を作成する際お手伝いしたので、回顧しながら、思い出の場面を述べてみたいと思います。

最初に内野駅前四つ角の第四銀行の駐車場で、朝早くドローンを飛ばした時の事が思い出されます。4時半ごろ駐車場に集まり、朝日が昇り始め明るくなると、ドローン操縦者の王毅さんがドローンを飛ばし始めました。ちなみに王毅さんは、いつでもどこでも飛ばせる免許を持っているそうです。ドローンは、駐車場から、飛び立ち内野駅前四つ角の上を、右に左に飛び回り撮影は、大成功でした。しかし、のちに加藤さんは、朝が早くて、日の光が低くて、影の部分が多く失敗だったと言っていました。

今回は、ドローンの空撮が多く臨場感が出でおり成功したと思います。その他に十返舎一九が「かの世」から来て説明役になり、弥次さん喜多さんが聞き役になる話が、分かりやすくなったかと思います。

この映像は最初40分ものとして、計画されたのですが、長野の水の考え方を取り上げなければと、加藤さんの強い思い入れで60分ものになったそうです。

新潟では、湛水・洪水被害を少なくするために、水を下流にいかにか早く流す工夫の「治水」に力点が置かれていました。

一方千曲川の上流部安曇野の複合扇状地では、水不足の荒地に水を供給し、水をいかに多くの田で利用す

るかの「利水」に力点がおかれ、勘左衛門堰、拾ヶ堰(安曇野ではじっかせぎと呼ぶ)などが造られました。

そして農業基盤が出来上がった村々は栄え、そこから道祖神文化が花開いていきました。その長野県安曇野は、盆地からなっています。この盆地は、いくつもの複合扇状地からなっておりますが、特に安曇野では、奇妙な現象がみられるそうです。

黒沢川や鳴沢川など山から流れてきた水は、平野へ出た途端、消えてしまうのだそうです。そして、途中で再び湧水となって姿を現し、川を形成しているそうです。これは、この盆地が礫質(小石)の多い地層からなっているためです。烏川も元は、水の枯れやすい川という意味の「枯州川(からすがわ)」から名前がついたと言われています。梓川も小石だらけの河原で、通常は小川のような細流となっていました。このため安曇野地区は恒常的な貧水地帯であり、昔から水を得るのに大変な苦勞を強いられてきました。

安曇野の堰の中でも拾ヶ堰は最大規模の用水路です。江戸時代後期の文化13年(1816)に開削されました。幹線水路の全長は、15キロメートル、ほぼ標高570メートルの等高線に沿って安曇野の中央部を貫いて流れ、高低差は、僅かに5メートルだそうです。

開削は、拾ヶ村の農村の指導者によって立案され、工事は延べ6万人以上の農民が参加し、約3か月の短期間に工事を終えるという、驚異的な事業でした。現在は、約1,000ヘクタールが灌漑され、安曇野の今日を築いた文化遺産となっています。

又、「疎水百選」に選ばれ、2016年開削200年を迎えました。勾配がほとんどないので、常念岳の山に向かって流れているように見える不思議な川です。

200年前は奈良井川から取水、途中梓川と平面交差(現在は、梓川の下をサイフォンで通過し立体交差)し、途中水田に水を注ぎ烏川に合流しています。

繰り返しますが、地元新潟の川だけを見るのではなく上流を見ることで、下流のあるべき姿や流域の魅力や将来の姿が見えてくるのではないかと、今回のDVDに収録した理由です。

今回のこの映像は、加藤功さんの何回も現地を足を運び収録した、努力のたまものです。加藤さん本当にご苦勞様でした。皆さんも機会がありましたら映像をご覧ください。

「新川音楽祭」にアイデア寄せて！

古侯 慎吾

◆小学校校歌こそ「新潟のうた」

8年前の5月、遠くから、とぎれとぎれに金管楽器によるメロディが聴こえてきた。

表に出て、耳をすましてみる。新川の向こう、静田神社の方から流れてくるのは、まぎれもない内野小学校校歌。昭和33年の卒業以来、50数年ぶりに耳にするメロディだった。

その日は「越後新川まちおこしの会」による「静田音楽祭」が行われており、内野小学校のブラスバンド部が演奏していたようだ。

私は、50年ほどギターの弾き語りをやっているが、新潟の人の前で歌うときは必ず「あなたにとって新潟のうたとは何ですか」と尋ねることにしている。「雪椿」「新潟ブルース」「佐渡おけさ」……など人によって大好きな新潟のうたがあるようだ。私にとって新潟のうたは「砂山」（北原白秋×中山晋平・山田耕筰）だったのだが、あるとき「小学校の校歌」と言われてはっとなった。

校歌は「わが学校はここにあり」をアピールするのだから、四季折々のふるさとの原風景がうたい込まれる。内野小の校歌にも弥彦、角田、新川、静田神社、奥手山、お筆山など内野のランドマークがうたい込まれている。

早稲田大学の「都の西北」を作詞した相馬御風は新潟県内141校（県外63校）の校歌を作詞している。相馬御風記念館の金子喜八郎さんは、「都の西北」の誕生まで日本の学校には校歌がなかった。その土地の川や山などをうたい込む日本の校歌の原型は御風が確立したといってもよいのだという。しかも、御風は現地に足を運んで作詞していたのでなく、土地の話聞き、歴史、文化、風景などの情報を集めてイメージを膨らませたという。



令和元年の新川音楽祭 聴衆者

内野出身の作家・藤沢周さんもいくつか校歌を作詞している。「生徒たちがどんな風景を見ているか、どんな空気を吸っているか、必ず現地を訪ね、風に当たり、イメージを膨らませる」という返事が返ってきた。

◆今年の「新川音楽祭」に向けて

懐かしい校歌を聴いた後に越後新川まちおこしの会に参加、音楽祭の担当になった。3年前からは「内野まちづくりセンター」が利用できるようになり、これまでの静田神社境内と違い、駐車場やトイレ、天候の心配をしなくてすむようになった。

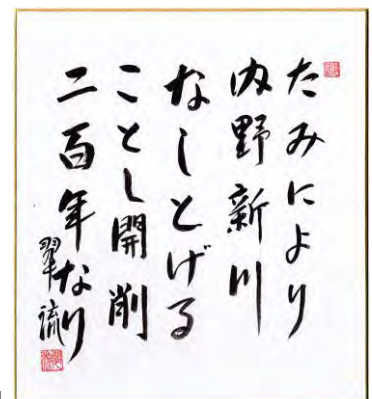
小学校のバンドが出演してくれてありがたいのは、家族の方々が見に来てくださることだ。昨年（11月16日）は内野小学校ブラスバンド部、永島流新潟樽砵伝承会、新潟西高校吹奏楽部、西内野コミ協吹奏楽団、うちのうたごえの和合唱団、越後ごぜ唄さずきものグループによる演奏で盛り上がった。



令和元年の新川音楽祭 演奏者

今年の開催は11月14日。もっと出演者の枠を上げ、まち中のあちこちに演奏の場を設けて……と構想は限りなく膨らむ。一方で予算の関係もあり、集客をねらって地元とかけ離れたサークルを招くわけにもいかず、結果として地元で活動する人々が中心となる。

「新川開さく200年」を飾る代表的なイベントになるはずなので、若い人たちがどんどん参加してアイデアを寄せてほしい。



笹川 悦男氏作品

内野小学校 PTA 役員 網本麻利子

令和元年10月5日(土) 越後新川まちおこしの会主催、新川開削200年プレイベント「十辺舎一九も見た、新川を支えた女たち」にパネラーとして参加しました。

200年前、伊藤五郎左衛門をはじめとする18名の願人が私財をなげうって、膨大な犠牲と共助によって実現した「新川開削」の大事業のおかげで、内野町は栄え、蒲原平野は豊潤な実りをもたらしたということをはじめて知りました。

先人の思いは、今も私たちに繋がっています。時代が変わっても、社会の問題に取り組むことは、今でも求められています。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策、環境問題、自然災害など、さまざまな課題があります。一方、ソサエティ5.0という超スマート社会に向かっていきます。また、私たちの暮らす内野町では、新しい住宅地域が広がり、新潟大学がある大きな地域になりました。

では、先人たちの思いは、この今の内野町でどんな風に繋がっているのでしょうか。昔と比べて「目に見えるものや考え方」は変わりましたが、「思いや願い」というのは今も変わっていません。様々な考え方を持った人が、思いをひとつにして社会の課題に取り組む姿勢は、200年前と変わっていないと思います。思いをひとつにすることで、隔たりのない異年齢のコミュニケーションが地域に生まれます。

内野小学校では、総合的な学習の時間「大好き内野！内野の“すてき”を見つけよう」で、新川、桜、祭り、新川漁港や内野駅といった内野の“すてき”などところのお話を伺い、子どもたちが特に興味を持った“すてき”を更に調べて、学習参観で発表しています。

また、五郎左衛門の劇や五郎左衛門の歌にとっても興味を持って学習しています。

令和元年度には、6年生が総合的な学習の時間で内野の町を調べ、町のよさを映像で紹介したグループの作品が「第3回GCL国際ジュニア映画祭」で表彰されました。

子どもたちが、実際に行動して感じたものを、社会の中で実現していくことで、先人たちの精神がまた未来に繋がっていきます。

映像「越後新川開削ものがたり」より、人間が生きていくための環境は、決して機能や経済効率だけで成り立つものではなく、「記憶」が人間の糧となり、未来に伝承されていくものと信じ、私たちが未来の子どもたちに繋げる役目を担っていきたいと思います。それは、今を生きている私たちが、相互の関係を大切に、地域の魅力を創出し、発信し、一人ひとりが必要とされているものを地域からつくり出していけたらと考えています。

人との繋がりを感じながら、学校・家庭・地域社会が連携し、子どもたちも参加するコミュニティを繋いでいきたいと思います。

三	二	一	内野小学校 校歌 作詞 飯田 一期 作曲 林 松木
ああ天然のうまし庭 あした夕べに親しみて 心の花に かわば やがて結ばん かたき実を	桜花咲く新川や 静田のほこら 神さびて 月すむ秋のお筆山	流れて越の野をひたす 声うちそうる 沖つ波	
弥彦角田の嶺の雲 たなびきたる 有明の うらわにひびく 松風に 声うちそうる 沖つ波			

内野小学校校歌 校歌で歌い続けられている「新川」



令和元年内野小学校運動会 地域の皆さんが子どもたちのために運動会の熱中症対策のテントを設営してくださいました

御野立所公園の建設と新川開削200年歴史資料展示

山岸 俊男

越後新川まちおこしの会は、平成25年に新川右岸排水機場跡地を公園にするため、「みずつち文化創造2013市民プロジェクト事業」と「地域活動補助金」により、広さ893㎡、中央部に旧排水機場ポンプと水車羽を展示し、広場には旧排水機場の一部資機材を使用したテーブルと椅子を設置しました。

そして翌年、再度「市民プロジェクト事業」により旧排水機場ポンプ・水車羽の展示台の周りに擬木柵を廻らせ、平成26年10月11日（土）に関係者20名を招いて盛大な開園式を行いました。



高山の五郎左衛門公園開所式(平成26年10月11日)

この公園は公募により、五郎左衛門公園と名付けられ、近くの子供達の遊び場になっていて、ここで新川開削の紙芝居などを実施しました。

越後新川まちおこしの会では、新川に沿った新川関連施設展示した2.5kmの「新川普請まるごと博物館」を展開しています。令和元年、新たに川の立体交差点の近くに小さな(12㎡程)御野立所公園を設立したので報告します。

御野立所公園は、上皇さまが皇太子時代に川の立体交差点を昭和31年7月17日に立ち寄られ、農林省新川事業所長阿部与助氏と中野小屋村村長椎谷太一郎氏から、新川開削事業や西蒲原農業について説明を受けられた場所です。

注) 新川普請まるごと博物館＝①五郎左衛門公園から下流に②立体交差点、③底樋・暗闇銘板展示、④御野立所公園、⑤金蔵坂の堀割り、⑥新川河口排水機場

その後の昭和34年4月10日、正田美智子様との御成婚を記念して、当時の農林省新川事業所地内に、中野小屋村村長椎谷太一郎氏と中野小屋村議会が記念碑を建立しました。同事業所が昭和55年3月に閉鎖となり、このため同記念碑は、他の記念碑と共に新川河口排水機場の構内へ移転しました。

平成から令和への改元と新川開削200年を記念して、当会の樋木尚一郎氏からの発議と多大な支援により、上皇さまが見聞された御野立所に近い新川右岸堤防に、この記念碑を移築することになりました。

移築するにあたり、新潟市地域活動補助事業を使い、転落防止柵、石碑基礎工事などを当会の会員の協力により移築を完成しました。



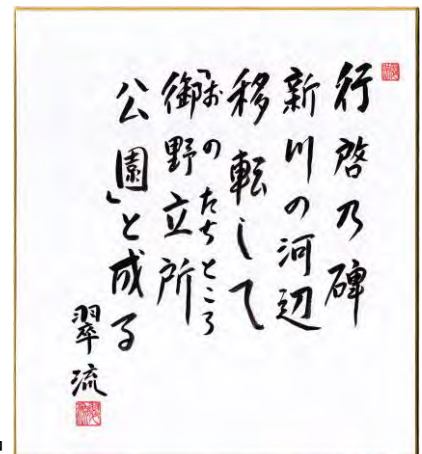
御野立所公園除幕式(令和元年5月25日)

令和元年5月25日に中原八一朗市長を迎え、御野立所公園の開園と記念碑の除幕式を、関係者及び地域の方々とともに実施しました。

この公園には、新川開削に関わる野外写真展示をウオロク内野様のご協力を得て、川沿いに常設開催しています。どうぞ皆様、一度お訪ねください。



御野立所公園前の新川歴史屋外展示



笹川 悦男氏作品

新川清掃12年のあゆみ

山中 清蔵

越後新川まちおこしの会は平成19年2月7日に発足しました。発起人の初代事務局長の丸山幸平氏（故人）の発案により、平成20年春より新川水系一斉清掃が始まり、令和元年で12年目となりました。



丸山さんも参加の第1回新川清掃(平成20年4月5日)

そして、その年の秋より、新川健康&クリーンウォーク作戦と銘打って春秋、年2回の新川清掃を行っています。令和元年秋までの12年間で、延べ1930名の参加総数となりました。平成30年10月27日が豪雨の為中止となりましたが、23回滞りなくやっています。そして、内野中学校の生徒さんは、参加総数の7~8割を占めています。



第11回新川水系一斉清掃(平成30年6月9日)

特に、内野中学校の中山真元校長のご尽力で今日を迎えており、内野中学校で伝統行事となっています。内野中学の先生と校長先生のご協力にも感謝申し上げます。さらに、西区役所区民生活課の絶大のご協力、西地区公民館、西蒲原土地改良区、北栄建設、NPO 法人新潟水辺の会のご協力にも感謝いたします。

新川開削200年に当たり、これからの200年の姿を考えてみたい。かつて新川で天然ウナギが獲れた。もう一度うなぎを獲って食べたい。鮭の遡上も3桁から4桁5桁、すなわち100匹から1万匹以上獲れる新川になって欲しい。さらに、トキが住める新川になればと考えています。トキの再来と鮭とウナギの夢を叶えるにはこれから200年、環境の整備が必要です。

上流の米作りには、ゲノム編集で、農薬を使わない米作りをお願いしたい。新川沿いに桜をもっと植えて、トキの営巣環境が整えるまで、楽しみながら待つのも一考かと思います。

新川、西川、広通川は、美しい環境が揃わなければ、今まで通り、新川の清掃は今後も続くかと思われませんが、「継続は力なり」を信じて、めげずに、年2回の新川清掃を行っていきたくと考えています。



率先してゴミを探す内野中学生生徒(平成29年6月12日)

ここで、中山先生の「新川清掃に想う」の抜粋を掲載させていただきます。

『内野中学校の母なる大地、その後背地としての西蒲区や西区は、川の氾濫によって困窮を極めてきた地である。そして、それを克服してきた先人の叡智と努力、それにより恩恵を被って発展してきた。このことを中学校の生徒が深く学ばないことがあってよいものか。』と述べられております。このことは我々大人の方こそ傾聴に値する提言と考えます。

さらに『生徒の奉仕の輪の胞子がフワフワと地域に広がってきました。その伝統が綿々と続いていることを嬉しく思います』とも発言しておられます。

人の手で、作り上げた新川、西川、広通川は、人の手で守り通さなければならないと強く思います。



平成30年度新潟市住みよい郷土推進協議会
優良組織の表彰(平成30年11月12日)

新川をトキの住む里への夢

山中 清蔵

新川開削 200 年に当たり、これからの 200 年の姿を
考えてみました。

トキが住める新川になればと考えています。2009 年
(平成 21 年) 7 月 15 日から 11 月 12 日の 123 日間ト
キが、我が家の目の前の新川沿いに住み着きました。
餌は仁箇提までとりに行っていました。

個体番号 13 番であったことより、近くの新潟大学で
は定着を願って、その 1 と 3 で「飛翔カズミ」と命名
されました。所属はトキとの共生を目指す実在の講座
「自然再生学」の「特別飛来学生証」を交付され、話
題となりました。その後、佐渡と本州を 2 度往復し、
佐渡で亡くなっています。

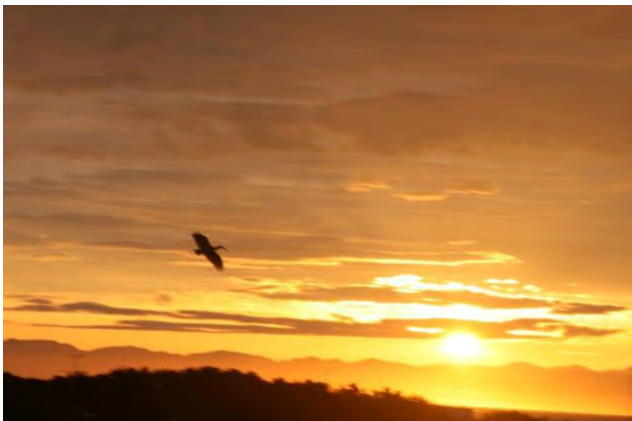
しかし、今は、松林の松枯れで、とてもトキの安全
な営巣とはなりません。私見ですが、トキの営巣には、
かつての松林を再生する必要があると考えます。今、
松を植えても 50 年以上かかるので、トキが来る環境に
するには 50 年待たなければなりません。

5~6 年前に酒田市を訪れた際、新潟市出身の職員が
新潟市の松枯れを大変心配していました。

200 年前、酒田の豪商本間家は私財を投じて松を植
え、庄内平野の流砂と塩害を防ぎ、優秀な米どころに
しました。新川開削 200 年の伊藤五郎左衛門と似てい
るところがあると思います。

庄内地方の松枯れは 1/3 が今でも枯れるそうですが、
毎年植林を行って埋め戻しているそうです。新潟は
2/3 が枯れ、その上、市民の強い要請で伐採をしてい
ます。しかし、植林せず放置しているだけのようと思
われます。トキの再来を願い、新川沿いに松林を再構
築すべきと考えます。

新川沿いの竹林とニセアカシア、山桜を伐採、崩壊
寸前の松林を新川沿いに再生し、トキの里になる事を
願っています。



日本海へ沈む夕日とトキ(平成 21 年 7 月 25 日)

編集後記

小泉 勇

今年(平成 31 年)は新川開削(新川は人工河川です)から 200 年、
会では記念行事をいろいろと計画しておりました。

そんな中、昨年暮れに中国で発生した新型コロナウ
イルスが瞬く間に世界的に流行し、日本でも毎日多く
の感染者が出ています。

新潟県は、3 月 29 日現在 31 名が感染し、東京方面
では、ウイルス感染者の拡大が止まらないことから感
染防止のため不要不急の出歩きが禁止され、この先い
つまで続くのか見通しが立たない状態となっています。

その様な中ですが、多くの皆様から寄稿いただきあ
りがとうございました。

中でも「女性の視点からの新川パネルディスカッシ
ョンとその後の座談会」は、読み応えのある記事では
なかったでしょうか。

この新川パネルディスカッションは、表舞台の男ば
かりでなく、陰で支えた女性たちに光を当てようと、
切口を変えて企画されました。この結果、女性たちだ
けのパネラーによるパネルディスカッション開催とな
りました。当日会場は予想以上の参加者で、発表者の
皆さん緊張していたことが思い出されます。

また、新川開削 200 年にあたり、西区宝サポート事
業の助成を受けて加藤 功さんが、新川開削の歴史を十
返舎一九が案内する映像(60 分)を作成しました。

2 月 15 日内野まちづくりセンターでの試写会は、こ
れまた予想を超えた 300 名近い来館者があり、会場通
路での立ち見や、ロビーでのモニター観覧となりました。
新川開削 200 年の関心の高さに正直驚いています。
新型コロナウイルスの早い終息を願っています。

新川通信-13 号 年 1 回発行
(現在会員数 100 名)

●発行：越後新川まちおこしの会
●事務局：新潟市西区内野山手 2-18-8-6

小泉 勇
電話・FAX 025-261-0235
E-mail : iikoi@r6.dion.ne.jp

入会案内

本会は、新潟市内を流れる西川と新川の立体交差などの近
代文化遺産とも言える、新川の歴史およびその流域で育まれ
た産業や文化について理解を深め、その環境保全につとめなが
らさまざまな活動を通じて、流域および周辺地域のまちおこしに
寄与することを目的に平成 19 年 2 月に発足しました。
年会費 1,000 円です。ご入会をお待ちしています。